

# 地域課題解決に資する コミュニティカフェのデザイン

## 1 目的・概要

コミュニティカフェ（以下、CC）とは、誰もが気軽に安価で利用できる「まちの居場所」であり、地域住民が集まって交流する場を意味します。近年、CCは地域における課題解決の一手段として、その有用性が注目を集めています。

本プロジェクトでは、地域における課題をプロジェクトメンバー自らが洗い出し、その課題を解決するために有効であることが見込まれる「場」を「デザイン」することを最終目標として取り組んできました。

今年度は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響によって生じた課題に着目しました。情報収集や現状分析によって「課題」を発見し、フォーカスを当てた課題について、自分たちの手で解決策となる「場」のデザインを行いました。春学期には、感染拡大防止の観点から、実際に顔を合わせなくてもつながることのできる、「新しい生活様式」に則ったコミュニティのデザインを試みました。秋学期には、大学生のコミュニティの希薄化、保護者の子育ての不安に焦点を当て、3つのイベントを実施しました。



### Annual Schedule

---

2020年4月～6月	CC、デザイン思考についての講義、チームビルディング 地域課題・コロナ禍における課題の現状分析
7月～8月	「子育てドットコム」「オンラインチューターシステム」デザイン、プレ発表
9月	グループ再編成、課題の見直し、理想のCCデザイン
10月	コミュニティカフェ（「喫茶 YAOMON」「パザールカフェ」訪問） CC「YORU CAFÉ」「空きコマコミュニティめばえ」「子育てドットコム」準備
11月	CC「YORU CAFÉ」「空きコマコミュニティめばえ」「子育てドットコム」準備
12月	CC「YORU CAFÉ」「空きコマコミュニティめばえ」「子育てドットコム」開催
2021年 1月	実施イベントの振り返り

---

## 2 成果達成度

### 春学期

春学期は2班に分かれ、CCのデザイン・プレ発表を行いました。

#### 「子育てドットコム」

「一人で悩まない環境づくり」と「潜在的な虐待の加害者を減少させる」をコンセプトとしたCCです。このCCの名称は、WEB上で子育てに資する価値を提供するという内容が、誰にでも伝わるように考えました。

内容は、グーグルフォーム、ツイッター、フェイスブック、保育園調査などによって悩みを収集し、書籍、経験者の声、専門家による回答するWEBサイトの運営し、定期的にZoom座談会を開催するというものです。

今回は、非公開のサイトを作成し、疑似的に座談会を行いました。発表会を通じて、Webサイトは本当に必要な人に届いているのか、オンライン座談会の実現可能性などの課題に気付くことができました。

#### 「オンラインチューターシステム」

「課題を自分で管理しきれない上京区の小学生を大学生がサポートする」をコンセプトとしたサービスです。

内容は、小学生の保護者がHP上でサービス登録し、時間割表とToDoリストをダウンロード・印刷し、子どもが自ら時間割とToDoリストを作成、チューターへ送信し、定期的にZoom等のオンラインツールを利用してフィードバックを受けるといったものです。

このサービスを通じて、休校中、学校の宿題等を計画的にこなせない小学生が、自己管理能力を自然に獲得できることを狙い、同時に子どもの課題進捗を管理する保護者の負担を軽減させられないかと考えました。

### 秋学期

改めてコロナ禍における課題の選定を行い、3班に分かれてCCをデザインしました。

#### 「YORU CAFÉ」

「コロナ禍で1回生の新たな交流の場を提供すること」をコンセプトとしたCCです。このCCの名称は、「寄る」と「夜」から着想しました。

内容は、学部学科関係なく1回生を集め、参加者同士が交流をしながら仲良くなってもらう場を提供するものです。

今回は、「ゲーム」をテーマとし、「共通点探し」や「ジェスチャーゲーム」を行いました。参加者同士の交流から話題が生まれ、初めて会う人を目の前にして緊張していた1回生がリラックスして参加できるように、簡単な飲食物の提供も行いました。参加者からは「友達が出来にくい状況だったので非常にありがたい企画だった」と言ってもらえたり、終わった後にLINEやインスタ等のSNSを自主的に交換してくれたりしました。イベントを通じて、早い段階から準備を取り組むことができれば、更に人を集めることができたのではないかとこの可能性を実感できました。



#### 「空きコマコミュニティめばえ」

「雑談による新たな出会いや気づき」をコンセプトとしたCCです。このCCの名称は「大学生の授業の空き時間を新たな気づきが生まれる機会にするコミュニティ」から着想しました。

内容は、コロナ禍において、人と会う機会が激減した大学生に新たな出会いの場を提供すること、会話の中で普段困っていることの相談や、新しい考え方の出会いを通して、より豊かな生活を送れるきっかけを提供することの2点が挙げられます。

今回は「雑談」をテーマとし、参加者が雑談をすることの大切さに気付けるような有意義な時間を過ごせるように、初対面でも馴染みやすくするためのアイスブレイクや、テーマカードの作成



により、雑談がただ「楽しい」だけで終わることなく、新しい何かに出会えるようにするなどの工夫をしました。同様の内容のイベントを11月～12月にかけて計5回行いました。そうすることで、各回の反省を次に生かし、より目的に沿ったコミュニティのモデルの構築が可能となりました。参加者の中にはリピートして来てくださった方や雑談の中で初めて聞いた歌手に夢中になった方や大学の「新島塾」や「プロジェクト科目」に興味を持たれた方もおり、雑談が楽しく、また、新たな考え方や情報の出会いの場となりました。



### 「子育てドットコム」

「上京区にお住まいの小学生のお子様を持つ保護者の方々の悩みを解決する」「コロナ禍での虐待の総数を間接的に減らす」をコンセプトとしたCCです。このCCの名称は春学期の取り組みから生まれたコンセプトを活かしたCCにするため、敢えて同じ名称としました。

内容は、オンライン上で講師の方をお招きして、子育てに関するセミナーを行って頂いた後、ブレイクアウトルームでグループディスカッションを行うというものです。

今回は、実際に小学校にチラシを配布し、大学教授の方をお招きしてイベントを行いました。予定の集客人数には及ばなかったものの、履修生や友人の参加をもって無事に開催することができました。

イベントを通じて、子育てというテーマが、大学生から親世代の方まで幅広い年代に受け入れられるものであり、気づきを与えることができるものであることが分かりました。また、人との繋がり的重要性や、様々なイベントに実際に足を運ぶことの重要性を学びました。

## 3 プロジェクトを通じて

本年度は、新型コロナウイルスを考慮して地域課題に資するCCをデザインする必要性がありました。このことは、地域課題を考えるだけでなく、コロナ禍で生じた新たな社会課題に目を向けるきっかけにもなりました。春学期はオンラインで授業を進める必要があり、最初は遠隔でのコミュニケーションに戸惑い、議論が膠着してしまう場面も多く見られました。しかし、前例のない社会状況を分析し、オンラインだからこそできることを考え、仮説、検証を繰り返したことで、社会で通用する課題解決力を身に付けることができました。このような状況下でCCのデザインに取り組んだことにより、オンライン上でのCCの実現は不可能ではないということを実感したと同時に、コロナ収束後に機会があれば、オンラインでのCCのデザインを経験しているからこそ、オフラインでしかできない魅力的なCCを提案・運営したいと考えています。



### 編集後記

私たちのプロジェクトでは、自分たちで見出した課題について、その解決に資する「デザイン」をすることを重視していました。新型コロナウイルスの流行に伴い、コミュニケーションの希薄化など、現時点では確立した解決策のない課題が多く見られました。また、従来対面を重視してきたCCも、「新しい生活様式」に適応した新たな在り方を模索することが必要になりました。実施した企画自体は、成功したといえるものも、課題が残ったものもありました。しかし、課題解決のためにコミュニティの場を「デザイン」するというプロセスを通じて学んだ点も多かったと感じます。コロナ禍という制限のある状況で、時には頭を抱え、思い通りにならない現実に直面することもありましたが、それぞれに強みを持ったプロジェクトメンバーとの協力・試行錯誤により、デザインしたCCを実施に移すことができました。このプロジェクトが乗り多いものとなったのは、多くの方のご支援の賜物であると実感しています。誠にありがとうございました。

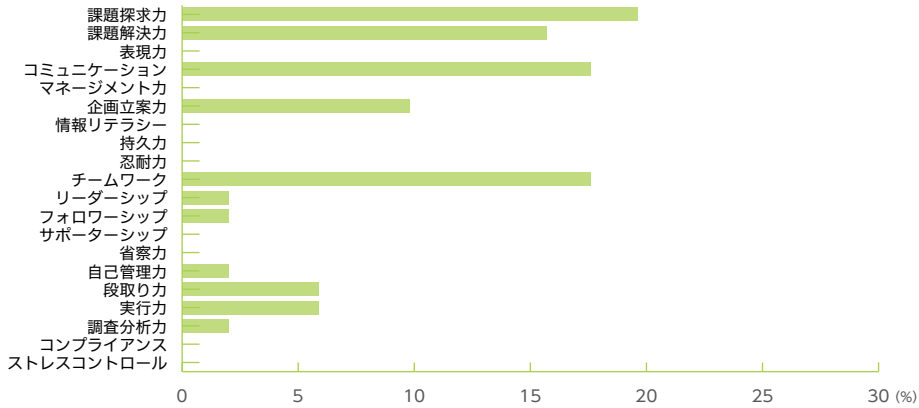
### プロジェクトメンバー

千葉 景加(文2) 河合 萌恵子(文2) 藤原 萌乃(社会3) 栗洲 太一(法3) 高木 理子(法3) 黒宮 大介(経4)  
 奥村 さくら(経済3) 八木 翔汰(商3) 西村 奈々花(商2) 鳥羽 亮佑(商2) 得重 侑弥(商2)  
 長澤 真菜香(商2) 道上 和也(政策3) 河野 采実(政策2) 松田 菜々子(政策2) 輪島 純(政策2)  
 西郡 琴音(グローバル地域文化3) 佐野 奈多里(グローバル地域文化3)

# プロジェクト活動 アンケート集計結果

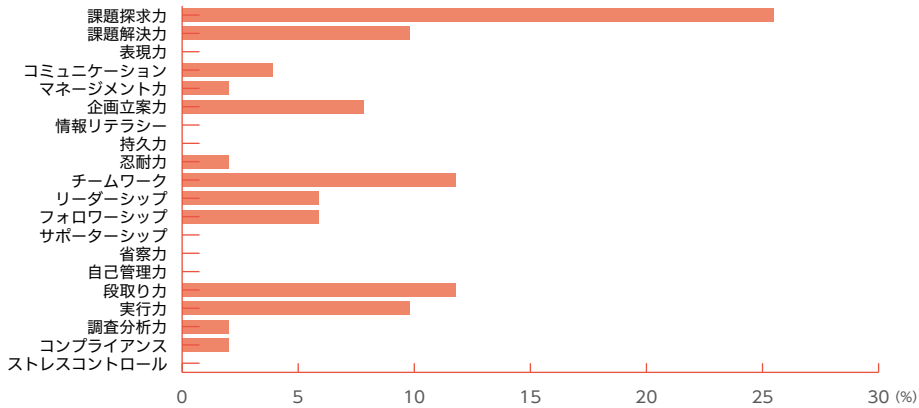
## 秋学期開始時

Q1 チームとしてのプロジェクト活動に「必要と思われる要素」を選んで下さい



## 秋学期終了時

Q1 チームとしてのプロジェクト活動に「必要と思われる要素」を選んで下さい



Q2 プロジェクト活動を通して実際にあなたが「身についたと思う要素」を選んで下さい

